

またあいつ

題字 宗像 精

第87号

令和7年7月12日

発 行 者

福島県公立学校

退職校長会

北会津支部長

菊池 芳次

新しい組織と魅力ある活動



支部長 菊池 芳次

今年度の総会において、新たに支部長に選任していただきました。素より浅学非才であります。これまでの先輩諸兄が築いてきた良き伝統をしっかり守っていききたいと考えています。

退職と同時に本会に入会し、庶務を仰せつかり会の運営、対外的な折衝等に当たってきました。その中で、今後の課題についていくつか考えることがあります。まず一つが幹事の選任です。入会後から連続して引き受けていただいている方

が何人もいます。交代して欲しいという声があり、齋藤前支部長さんは大変に苦労しました。年度末から年始にかけて何人にも電話をし、幹事依頼をしました。仕事、介護、家庭事情等で断られることが多く、ようやく今年度の組織ができました。今回限りとの声もありますが、幹事を引き受けてくれた方々に感謝します。次回は比較的若い方々をお願いできるよう、今から準備していかなければと思っています。

二つ目は会の大きな目的である会員の交流をいかに図るかです。会に入ってきたと感じられる魅力ある行

事、活動が必要です。これまでも、広報部、福祉部、調査研究部が様々な取り組みを模索してきましたが、参加者が限られているという現象が見られました。一人一人の負担が多くならず気軽に参加できる内容を、会員の声を聞きながら検討していきたいと思っています。

六月十日に御蔵入交流館において今年度の県大会会津大会が行われました。会津開催の場合は、四支部で実行委員会を立ち上げ、会津は一つの合い言葉で取り組んできましたが、今回は南会津支部単独で準備しました。お金をかけない、シンプル化、スリム化を心がけました。負担が大きいので隔年開催ではという声が出ています。今後の県大会の在り方を示唆する、素晴らしい大会運営だったと思います。本支会から四十一名が、バスと大型タクシーで参加しました。短時間の移動でしたが、良い交流が図れたのではないかと思います。

悠悠写真展

着陸

成田 力



最も接近して飛行機を見られる場所と言えば大阪伊丹空港だ。撮影場所は千里川土手。頭上七十呎を二、三分ごとに飛行機がやってくる。自分に向かって降りてくる飛行機の爆音と機体の迫力を一枚に納めようと夢中でシャッターを押す。絆の襷



朝、ビジネスホテルを四

時に出る。山手線の始発に乗り東京駅に向かう。徒歩で読売新聞本社前のスタート地点に着いたのが五時。スタート五分前。張り詰めた空気。母校の襷を掛けた選手たち。幾重にも重なる応援者。スタート寸前会場は静寂になる。

全国五位



この大会は京都で行われる。県の優勝校が出場する。県の代表校を毎年京都まで行って応援している。どこで撮影するかが大事であるが、今回は必ず入賞するものと思い、競技場で待つことにした。単独五位で入って来たときは誇りを感じた一枚だ。今年度は優勝を期待したい。

支部総会開催

菊池芳次新支部長選出

一 総会

四月十三日、北会津支部総会は、来賓のご臨席のもと、ルネッサンス中の島を会場にして行われた。会員五十三名が参加した。

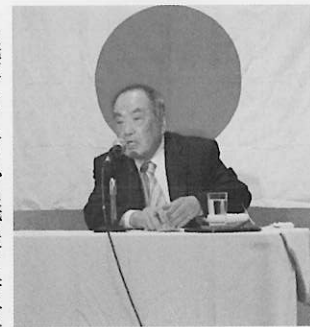
物故会員への黙祷に続き開会の言葉、国歌斉唱、齋藤秀一支部長の挨拶が行われた。齋藤支部長は、支部の考えや要望等を県に伝え、県から全国につながる広げ、活動をさらに充実させていく必要があると話された。



支部長あいさつ

続いて、六名の新入会員を代表し、吉野徹様より挨拶があった。米寿、喜寿を迎えられる会員に齋藤支部長より記念品が贈呈され、渡部久雄様から代表挨拶があった。さらに、県以上の表彰をされた方の紹介があり、春の叙勲で瑞

寶雙光章を受章された滝沢玲子様から代表挨拶があった。



議長に選出された菅家敏之様

議事に入り、議長に菅家敏之様が選出され、令和六年度事業報告並びに会計報告、令和七年度事業計画（案）並びに予算（案）について審議され、原案通り承認された。今年度は、役員改選が行われ、菊池芳次副支部長が新支部長に選出された。

新役員

支部長	菊池 芳次
副支部長	本田 樹
同	大堀 昌弘
同	川島 宏
監事	渡部 毅
同	渡部 四郎
同	小野 俊夫
幹事長	佐藤 清美
副幹事長	兼子 栄一

会の発展に寄与された齋藤前支部長と川上前副支部長に

感謝状が贈られた。

二 講演会

「ごみの減量と家庭ごみ処理有料化」について、会津若松市役所環境共生課主幹渡部博之様による講演が行われた。

一人あたりの一日のゴミの排出量は、会津若松市は同規模自治体の中ではワースト十位（福島県は最下位）であり、生活系ごみの排出量はワースト四位である。ごみ緊急事態宣言を出し、様々な取組を行ってきたが、ごみ減量の目標達成には至っていない。

会津若松市は、令和八年四月一日より、家庭ごみ処理の有料化を決定した。ごみ処理の手数料を負担すること、ごみ排出への課題意識が生まれ、ごみ減量に繋がることを意図している。有料となるのは、「燃やせるごみ」「燃やせないごみ」「粗大ごみ」である。

地球温暖化対策は、待ったなしだ。ゼロカーボンシティを実現し、次世代に住みよい環境を継承するためにも、ごみの削減は喫緊の課題である。

三 懇親会

祝賀懇親会には、四十七名が参加し、交流を深め楽しく充実した一時を過ごした。

新入会員紹介

心より歓迎致します。

（一）内は最終勤務校

篠崎 俊樹 様（神指小）
長沼 敬貴 様（謹教小）
半谷 成満 様（一箕小）
吉野 徹 様（猪苗代小）
高橋 祐一 様（若松四中）
玉木 敏彦 様（若松五中）
半谷様、高橋様については、特例任用校長として、それぞれ東山小、北会津中に勤務されています。

篠崎 俊樹

神指小で特例任用校長を一年間務め、三月に定年退職を迎えました。四月からは、初任者研修の研修コーディネーターとして、四校六名を担当しています。お世話になります。

長沼 敬貴

三月末に謹教小学校を退職し、しばらくのんびりした生活を送っていましたが、五月二十一日に昭和村教育委員会教育長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いたします。

半谷 成満

この四月より特例任用校長として東山小学校に勤務しています。六十歳を過ぎ百九十九名のかわいい子ども達と一緒に学校現場で継続して勤務できることをとても幸せに感じております。

吉野 徹

三月末に役職定年・普通退職し、四月から拠点校指導教員として四人の初任者と一緒に学び直しの日々を過ごしています。

お世話になります。よろしくお願いたします。

高橋 祐一

三月に若松四中で役職定年となりました。四月からは特例任用により、北会津中学校で勤務しております。もうしばらく子ども達のために、できることに全力を傾けたいと思います。

玉木 敏彦

四月から西会津町教育委員会、学校教育アドバイザーとして勤務しています。西会津の子どもたち、先生方の役に立てるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願申し上げます。

幹事長・部長にインタビュー

新幹事長

佐藤 清美

今年度より本会の幹事長を拝命いたしました佐藤清美です。本田樹前幹事長様から多くの有難いご助言と丁寧な引継ぎをいただき、少し前が見えてきております。今後、菊池支部長様、三名の副支部長様のご指導をいただきながら責務を果たしていきたいと存じます。

会計部長

山内 正吉

「金は天下の回りもの」という言葉をよく耳にするが、何故私のところにだけは金も回ってこないのだろうか：などと溜息交じりの愚痴をこぼす今日この頃。北会津支部の会計を担当して七年目ですが、諸物価高騰の折でもあり、気を引き締めて頑張る覚悟です。

広報部長

鈴木 基之

三月に定年退職をいたしました。会報作成は、私の一番苦手な分野かもしれませんが、島先生をはじめ、広報部の先生方のお力をお借りしながら、会員の交流や親睦の懸け橋となる「きたあいづ」の発行に全力を注いでまいります。よろしくお願いいたします。

庶務部長

兼子 栄一

過去二年間、庶務部長として会議のたびに要項の訂正とお詫びをしていた自分が恥ずかしい限りです。そこで今年度は「正確な情報を確実に届ける」をモットーに、新たな気持ちで庶務部長の責務を果たしていきたいと思っています。これからもよろしくお願いいたします。

調査研究部長

星 善樹

退職して七年目。昨年から、畑仕事をしたり、英語の勉強をやり直したり気ままに過ごしていました。そんな中での突然の研究部長という大役。何もわからない状況ですが、ご指導いただきながら、責務を果たして参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

福祉部長

宇川 守

福祉部では年二回、会員の福利厚生の上を目的とした活動を実施しています。具体的には、幼小中学校や一般企業への訪問見学や名所旧跡の見学です。計画立案、打ち合わせ等、大変なこともあります。今年度もよりよい研修となるよう推進していきたいと考えています。

第五十九回 福島県公立学校退職校長会 会津大会開催

六月十日、第五十九回会津大会は、南会津町御蔵入交流館で行われ、本支部からは、四十一名が参加しました。

富士寛樹会長のあいさつに続き、齋藤修一大会実行委員長が、本大会に願う四つのレガシー（テーマ、転換、環境、宣言）について、現在そしてこれからの教育と合わせた熱い思いを話されました。



齋藤修一 大会実行委員長

講演は、只見町に米焼酎を作る「合同会社ねっか」を設立された、脇坂斉弘氏です。「ねっかさすけねえー」只見町で使用する方言「ぜんぜんだいじょうぶ」が由来の「ねっか」が人口減少等の地域の課題に真正面から取り組み、企業

理念は、「地域の思いを形にし、楽しいを次世代へつなぐ」。まさに本大会テーマ「共生と持続可能な社会の実現に向けて貢献するために」に通じるお話でした。講演終了後は、ねっか販売ブースに長蛇の列ができました。



講師 脇坂斉弘氏

午後は、伊達支部の矢館実也氏から写真による感動、田村支部の安瀬一正氏から支部の現状に即した会活動の模索、そして双葉支部の小野田敏之様から、ご自身の体験も含めて、まさに双葉の今についての発表をいただきました。最後に、次期開催主管の西白川支部鈴木且雪支部長から、来年の大会について説明があり、閉会となりました。

席を立つ

成田 正良



一人で東京を散策するところが好きである。会津若松市の田舎にいとと都会の喧騒がふと恋しくなる。年に一回は都会の流れに足を踏

み入れてみたい。

浅草・柴又・渋谷・巣鴨など素敵な風景は私の心を癒してくれる。また六本木・池袋・新宿（とりわけ歌舞伎町）などの夜景は青春時代の甘くて辛い雰囲気

を醸し出してくれる。ある日、上野駅から山手線に乗り込んだ。ラッシュアワーの時間は過ぎていたもののかなりの混雑状態。二駅を過ぎてから、ようや

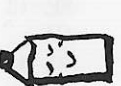
く席を確保することができた。目白駅で一人の老婦人が入ってきて、私の前に立った。見たところ私よりはるかに年を取っている。さて私が席を譲るべきか。席を立とうとした、そのとき、隣の大学生と思われる若者が、「僕が代わります」と

と席を立った。その若者はすがすがしい姿で、新宿駅で電車から去った。

「今どきの若者は」と世の人はその言葉をいろいろな場面で吐き出す。若者のふがいなさを嘆き、叫び、訴える。でもこの言葉は平安時代の頃から、代々年寄と言われる世代から、若者の世代に浴びせられ、今の時代へと続いているのと

と。私も何度となく浴びせられてきたことか、そして、何度口びるをかんできたことか。それ以降、私は東京に行つて電車を利用する際に、席を譲る人の年齢層を観察するようになったのだが意外にも若い世代が多いことに気づいた。

一番席を譲らないのは圧倒的に中年以降のシルバーク世代、われわれの世代である。何と嘆かわしいことか。「今どきの年寄りとは」と言われたいようにしたい。



流れる調べ

渡部 久雄



子どもの頃から、頭の中をいつも何かしらの旋律が流れ、それを口ずさむことが多かった。小学六年の時、放送部長

になって、掃除の時間になると放送室に行き、掃除の音楽をかけるのが役目だった。七八回転の重いレコード盤は、サン・サーンズの「白鳥」だった。ピアノ伴奏のもとでチェロの旋律が流れる。みんな一所懸命掃除をしているのに、私は回転するレコードを見つめ、何度もレコード針を戻しながら、優雅な調べに聴き入っていた。

中学三年の時、修学旅行で行った三越デパートのある階で、私は陳列されていたオルゴールに見入っていた。木製の風車小屋から聞こえる旋律は、後で知ったが、ヨシフ・イヴァノヴィチの「ダニエーラ」（ドナウ川）の漣^{さざなみ}だった。どこか切ない調べの虜になっていく間に、みんなにおいて行かれ、私一人が屋上での集合時刻に遅れて着いた。

大学一年の時、寮で別棟の同級生の部屋で、私は彼のポータブル電蓄で、四五回転のソノシート盤のレコードを聴いた。その中でヴォルフ・フェラーリの「マドンナの宝石」の甘美で哀愁漂う調べに酔いしれた。その後も何度か、彼から電蓄とレコードを借りてきて、自分の部屋で聴いたものだった。私の中で流れる調べはこ

のほかに、童謡、唱歌、流行歌、ポップス等たくさんある。高齢のせいとか、夜中、目が醒めると、何かの調べがすぐ浮かんできて、頭から離れなくなり、次の睡眠に支障をきたすことがある。が、それは深く考えず、前向きに過ごそうと思うこの頃の生活である。

明るく前向きに

岡 崎 敦 子

校長昇任試験の最終面接の第一問に「あなたの夢は何ですか?」と聞かれました。私は迷いもなく「どこか小さなホールを借りてピアノリサイクルをすることです。」と答え、笑われました。退職してすぐピアノの練習の開始です。目標はリストの「ラ・カンパネラ」。日々少しずつ弾けるフレーズが伸びていくことに、夢が近づくようで、夢中になって取り組めました。ところが、退職後に見つかった病気の薬の副作用が現れ始め、鍵盤に触れただけでも激痛が走るようになり、ピアノの演奏を諦めなければならなくなりました。リサイクルで弾く曲目も決めていて、最後はカンパネラで締めるという夢はどこかに飛んでいてしまいました。結構本気で考えていたのでショックは大きかったです。しかし、自分で言うのもなんだけど、もともと諦めの早い私!気がつくともピアノに代わる何かを探していました。

そんなある日、チラシで見たブリザーブドフラワーアレンジメントの募集が目にとびこんできて、さっそく教室に入会の手続きを取りました。約二時間のレッスンは、息もしていないのでは?というくらい集中して取り組め、できあがりの何ともいえないかわいらしい花にたった一回目で虜になってしまいました。早いもので退職して七年が経ちます。今、私が夢中になって取り組んでいるものは、月一回のブリザーブドフラワーアレンジメント。本気で集中して取り組んだ後の爽快感、達成感は最高。しかも毎月、かわいい花は増えていき、家中が華やかになったと、家族も褒めてくれます。病気に対する不安やピアノリサイクルへの心残りなど不安なことは、まだ多々ありますが、気持ちを切り替え、夢中になって取り組める楽しみを見つけていくことの大切さに改めて気づきました。これからの人生、どうせ生きるのなら、前向きに明るく過ごしていきたいものです。



悠悠ひろば

再発見! 「柳津町の魅力」

神 田 順 一

退職して一年後の二〇一九年四月から、柳津町教育委員会にお世話になって、早くも六年が過ぎてしまいました。

勤務してすぐに平成から令和へと元号が変わり、気持ちも新たに、町の教育行政の充実を考へて取り組みはじめた矢先、考えもなかったコロナ禍に見舞われてしまいました。何もできないまま、多くの時間が過ぎてしまったことが、本当に惜しまれます。そんな中でしたが、ワクワク、ドキドキする新たな発見が数多くありました。

ご存じのように、柳津町は、赤べこ伝説発祥の地です。この伝説の舞台である圓蔵寺では、文化財の保存や利活用のための新たな取組がはじまっています。また、虚空蔵尊信仰がはじまる

遙か以前の縄文時代中期の遺跡からの貴重な出土品が、『ほっとinやないづ』に併設する『やないづ縄文館』に展示されています。町内には、縄文前期までの遺跡がありません。これは、今から五五〇〇年程前の沼沢火

山の大噴火・火砕流の影響によるものです。



この未曾有の大災害から不死鳥のように蘇り、火焰型土器や土偶が出土した石生前遺跡に代表される縄文のムラが形成され、今日の柳津町へと続いているわけです。さらには、生涯学習係による伝統文化・行事の調査研究では、保存食を中心にした伝統的な食文化が、町内各地区で継承されていることが確認できました。これら文化資源は、観光振興での利活用の可能性も大きいと思われる。

外から見えにくい町の魅力は、まだまだあります。斎藤清美術館もありますので、多くの人たちに、新たな柳津町の魅力を再発見してもらいたい、…などと考えて仕事に励む(?) 毎日です。

特別企画 学校へ行こう！

新しい「磐梯の教育」 を目指して

磐梯町立磐梯第一小学校

校長 佐々木 豊

磐梯町の教育が、今、大きく変わろうとしています。昨年九月に「〇一十五教育基本構想」が策定され、「多様性と包摂性があたりまえにある世界を子どもと大人でつくる」を基本理念に、〇才から十五才の連続した成長に寄り添った教育を行うことになりました。多様性と包摂性を大切にし、「共生」「公正」「自治」を体現する人づくりを、幼・小・中連携して目指していきます。

また、子どもたちが自分に合った「学び方」を選択できるように学校選択制の導入も決定しました。磐梯町の小学生は学区に関係なく、磐梯一小・磐梯二小を自由に選択できるのです。令和八年度の実施に向け、町からは選択の判断基準となる特色を考えて取組むよ

う求められ、今年六月と十月には「学校見学会」も予定されています。

そこで、磐梯一小では新しい「磐梯の教育」を目指し、今年度、教育目標を変えました。次の通りです。

協働（承認と協力）

追求（夢中になれること）

自律（選択と決定）

この教育目標を具現化するための取組が「本校の特色」となるものです。次の三つです。

①小グループによる協働的な学び

②体験活動と交流活動の重視

③授業のユニバーサルデザイン

①と③は校内研究の手立てに位置付け、日々授業改善に取組んでいます。男女



小グループによる協働的な学び

混合四人グループを作り、わからない子どもが「ねえ、ここどうするの？」と友達に問いかける学びを行います。②は今年度配置された教育プロジェクトマネージャーを通して、外部人材を積極的に活用します。体験活動・交流活動を推進し、多くの体験、多くの出会いをさせたいと思います。

新しい「磐梯の教育」の実現のためには、これから多くのことを変えて取組む必要があると考えています。磐梯町の子どものために幸せを願い、教職員みんなで知恵を出し合って、協力しながら前へ進んでいきたいと思っています。

先進性と 無類の子どもたち

猪苗代町立猪苗代中学校

校長 鈴木 雅彦

標高五百メートルの涼冷な高原に位置する本校は、冷暖房、LED照明、自動給水、太陽光発電、ペレックストーブ等々、全地球的課題の深刻化軽減に寄与する先進の設備を擁する校舎の竣工と共に、令和四年に町内三校が統合し、新生猪

苗代中学校としての教育活動が始まった。恵まれた施設環境の中で展開される教育活動の主軸となるのがESDの理念である。一過的な行事としてではなく、持続可能かつ教育効果が期待できる取組を積極的に教育課程に取り込んでいる。事実、それらの活動が評価され、令和六年度には優秀教職員団体文部科学大臣賞を拝受し、さらに、令和七年五月には中学校としては県内三校目のユネスコスクールとして認定された（先輩諸氏には、ESDやユネスコスクール、SDGsといった単語群に関しては別に検索願いたい）。また、令和六年度に立ち上げたコミュニティ・スクール（学校運営協議会）は、学校の要請に地域が応える『支援型』から「信頼できる大人と関わる機会」から得られる『子どもができること』を模索しながら、子どもたちのために一体となって育てていく『協働型（双方向）』へと、今後その取組を推進していく。

世帯数五千二百あまり、人口増加率マイナス二%台、二〇二三年の出生数は四十人、現在の本県の少人数教育が継続されたとしても、二〇三五年以降には学級数は確実に二学級ないし一学級となる。そのような本町の事態から、将来的には義務教育学校、さらにその先は町のセンタースタッフ機能を有した教育関係施設として本校は姿を変えていくかもしれない。しかし、時が過ぎても、統合時に掲げた郷里の偉人野口英世博士の遺訓に学ぶ教育目標の実現に向けて、現在ある姿をさらに昇華させ、素直さと可能性を併せた子どもたちが、優れた指導者によって能力を開花させていく魅力的な中学校であり続けてほしいと願う。



統合以前から続く天神浜の水草除去活動

安 齋 驟 遲

相馬野馬追をテレビでみた。御繰り出しそして本陣の中ノ郷・小高郷・標葉郷に立派なものであった。また、勢揃い・お行列と、よく続いているものだ。甲冑競馬・神旗争奪戦等。

大 関 善 壽

呆けていくことは、寂しいことです。でも、そんな自分の変わり様を、いつまで書き留めていけるか、今試しているところです。皆さま、益々ご壮健にてお過ごしくださいませ。

星 美 法

超豪雪だった冬も去り菜園作りの季節です。これは連作よし、あれはだめなどと植えた苗も随分成長しました。日々元気に作業できることに感謝しながら収穫を楽しみにしています。

鈴 木 雅 之

二週に一回は図書館へ。ジャンルは問わず、最高八冊借用。中でも面白いのは世界各地の旅行記や旅行案内書、世界地図を脇にいつでも無料の外国旅行。憧れは豪華客船での世界旅行。

小 野 俊 夫

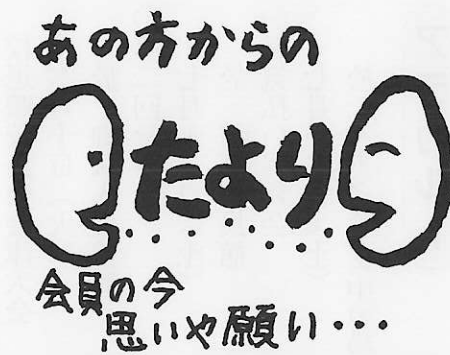
ゴルフを始めて二十年余り。今では体力、気力のバロメーターになっている。以前はパーセーブクラブ、現在はボギーセーブクラブ、月一回のゴルフと年一回の一泊二プレーが楽しみである。

眞 部 信 一

「何かあったのか」私の頭を見るなり、村の人が声をかけてきた。半年かけ長年の毛染をやめ、完全な白髪になっていったのだ。理由はただ一つ。面倒くさくなっただけ。気になさらずに。

大 橋 淳 子

世代交代や働き方改革等により校内研究は不活性化の傾向。子どもの学びの姿を通して教科の本質や教師の支援を省察する授業研究コミュニティにより、実践の継承を考えています。



このコーナーでは、会員の皆さまお一人お一人から、近況や、今の思いなどについて、お寄せいただいております。

生まれ月順でお願いをしております。87号は、7月、8月生まれの方からいただきました。ご多用の中、ほんとうにありがとうございました。次回88号は、8月、9月生まれの方から頂戴いたします。ご協力よろしくお願いたします。

渡 部 伸 幸

毎年、様々な体験をしています。罾猟免許取得、漁協監視員、会津伝統野菜・無農薬米栽培、磐越西線線路ポイント注油、海づり、アユづり・刺し網漁、四トンドン浦運転等です。

菊 地 裕 二

亡き父は、春は山菜、夏はアユやイワナ、秋は茸採りに出かけていた。幼い頃から良く同行させられ、嫌で堪らなかった私。気づけば最近、それらを根っから楽しんでるんだよね。

佐 竹 正 徳

八年目の我が愛車、退職前の四年で十余万キロ走行。しかし、退職後の四年間では二万キロ弱、その落差に愕然。健康、精神衛生のためにも、行動する機会を広げていこうと考えています。

小 林 稔

恩返しと思い野球の審判員④始めました。若手審判員からメカニクス(審判員のフォーメーション)やジャッジの仕方にダメ出しされて、久し振りのご指導に思わず笑顔になっています。

鈴 木 基 之

主夫歴三か月。単身赴任が長かったことが割と生きています。朝四時起きは、現役の時と変わりません。家事と母親の支援とジム。頭はもう鍛えられないので、せめて体の老化を緩やかに。

山 岸 実

健康づくりで始めたランニングがもうすぐ十年。正に「五十の手(足?)習い」です。休日は妻と河川敷を走るのが習慣です。今年も鶴ヶ城ハーフマラソンの三キロペアに出場します。

事務局コーナー

おめでとうございます

◆高齢者叙勲で

受章された会員

瑞寶雙光章

菊地 庄意 様

令和7年3月1日

瑞寶雙光章

山内 昇 様

令和7年4月1日

◆功績により表彰を受けられた会員

文化・スポーツ知事感謝状

文化部門

馬場 泰 様

令和6年11月3日

◆令和七年度「賀詞」

(満八十八歳)を受けられる会員

齋藤 健 様

昭和12年6月12日

新井田 滋 雄 様

昭和12年8月15日

横山 敏明 様

昭和13年1月24日

二瓶 修 様

昭和13年3月13日

本多 勝男 様

昭和13年3月16日

◆令和七年度「喜寿」を

迎えられる会員

齋藤 賢一 様

昭和23年5月20日

渡部 久雄 様

昭和23年9月18日

成田 正良 様

昭和23年9月27日

丹藤 勉 様

昭和23年11月22日

齋藤 秀一 様

昭和23年11月30日

生前のご活躍に感謝申し上げますとともに、慎んでご冥福をお祈りいたします。

五十嵐 直義 様

令和7年4月12日ご逝去

星野 暉彌 様

令和7年4月25日ご逝去

◆前号以降の主な活動

○県理事会

・三月十一日(火)

於 吾妻学習センター

○会計監査・第二回理事会

・三月十五日(土)

於 河東公民館

○支部総会、懇親会

・四月十三日(日)

於 ルネッサンス中の島

○県評議員会

・四月二十五日(金)

於 吾妻学習センター

○第一回幹事会

・四月二十七日(日)

於 河東公民館

○連絡員会議

・五月十日(土)

於 河東公民館

○第五十九回福島県公立学校退職校長会津大会

・六月十日(火)

於 御蔵入交流館

○第二回幹事会

・七月十二日(土)

於 河東公民館

○暑気払い懇親会

・七月十二日(土)

於 ルネッサンス中の島

アラカルト

小中学生の人数の推移

(北会津地区)

「子どもの数が減っている。」よく耳にしています。が、実際のところどのくらい減少しているのか調べてみました。

十年間で約二割ずつ減少しているようです。県全体、他地域のデータを持ち合わせ

【北会津地区小中学校児童生徒数の推移】

年 度	会津若松市	猪苗代町	磐梯町	合 計
2025	7,668	797	251	8,716
2015	9,763	1,283	274	11,320
2005	12,318	1,604	329	14,251
1995	15,422	2,059	520	18,001

- ・各年度の教育関係者名簿からの数値です。
- ・公立小中学校の児童生徒数ですが、学鳳中の生徒数は含まれていません。

(人)

せていないので、比較してお見せできません。本地区だけではなく、全国的にもそうですが、それでも予想以上に子どもたちの数が減っているように感じます。

このままいくと・・・と不安に思いますが、各市町において、子育て支援策が展開されているようですので、期待したいと思っています。

編集後記

間もなく夏休み。以前ならば「子どもたちは、野に山に川へ海へと活動のフィールドが日常的に大きく広がることに胸躍らせ、親もまた子どもたちを連れての家族旅行に思いを馳せ！」等と、今の時節を無邪気に書いていたように思います。

ところが、近年はそう単純ではありません。昨冬の大雪はまだ記憶に新しく、気候は年々苛烈さを増し夏もまた然りです。「野に山に」というのも、熱中症予防とのせめぎ合いとなり、旅行もまた円安によるインバウンド観光増が影響し宿が取れなかったり、物価高のため節約を余儀なくされたりと、夏休みもだいぶ色あせて見えてきます。「降る雪や明治は遠くなりけり」とは中村草田男の句ですが、昭和もまた遠くなったように感じます。

そんな世情にあって、紙面を通して会員の皆様のお声を聞くことで元気をもらっているのは私だけではないものと思います。本号の発行にあたり、玉稿をお寄せ下さった皆様に心より御礼申し上げます。